



大明小学校

大明小H. P



校長室から

令和4年10月26日

No. 8

文責 三井 保

充実した実りの秋でした！！



朝夕の冷え込みが身に染みるようになり、季節は着実に冬へと向かっています。24日夜から25日朝まで、特に冷え込みが強まり、通勤途中、八ヶ岳から南アルプスの山々が雪化粧をしている様子に驚きました。特に本校西側にそびえる楡形山は一定の高さから上が白くなっていて、山が2色に塗り分けられた様子でした。つい先日まで、熱中症に警戒しながら運動会などの取り組みを行っていたことが信じられないような季節の移り変わりです。

そんな中、子どもたちは諸活動に意欲的に取り組みました。10月20日に6年生は日世スタジアムで開催された陸上記録会に参加してきました。雲一つない秋晴れの日に素晴らしい競技場で試合ができる南アルプス市の子どもたちは幸せだと感じました。子どもたちが練習の成果を出そうと、自分自身と戦っている姿に感心しました。本校の6年生たちも素晴らしい記録をたくさん出して、賞状もたくさんいただくことができました。

他学年の子どもたちも日々の学習活動に意欲的に取り組んでいます。5年生は静岡に、4年生は信玄堤など治水関連の史跡巡り、2年生は県立科学館、1年生は富士川クラフトパークと学年ごと校外学習にも行ってきました。この後、3年生は消防署見学、6年生は国会見学と続きます。様々な経験や学習を積み重ね、後半、今年度の最終ステージに向け成長し続けているところです。11月10日(木)には文化発表会を開催いたします。今年度も感染症対策のために3密回避を優先しながらの開催となりますが楽しみにしてください。

10月に入り、各教室からは歌声や楽器の音が聞こえるようになりました。あくまでもこれまで取り組んできた日常の表現活動の発表の場ですが、保護者の皆様や他学年が見てくれることが子どもたちにとっては励みとなったり、よりよい発表にしようとする事の動機づけとなったりと意欲の向上につながっていると思います。そしてなによりも子どもたちにも保護者の皆様にも心から楽しんでもらいたいと願っています。なお、詳細につきましては通知文書やプログラムをご参照ください。子どもたちのより一層の成長を促すためにも今後とも本校教育活動への御理解と御協力をお願いいたします。

朝ドラのおばあちゃんに思うこと



個人的な話になりますが、私は毎日帰宅後、NHKの朝ドラを見ています。作品によっては(年を取ったせいかな)毎日涙を流しながら見ていたものもありました。10月より「舞い上がれ」という作品が放映されています。主人公の舞ちゃんは原因不明の発熱に苦しみ、思うように学校生活を送れないという設定からのスタートでした。医師からの勧めもあり、母の出身地である長崎の五島の祖母の家で母と祖母と3人で生活することになるのですが、それまでの生活の中で、病気がちの娘に対して母親は「転ばぬ先の杖」を常に差し伸べていました。島の生活でもその様子は変わらなかったのですが、その様子を見ていた祖母(高畑淳子さん)が母親を大阪へ返し、2人での生活が始まります。祖母(ぼんば)は舞ちゃんの気持ちを最優先に考え、励ましながら舞ちゃんを見守りつづけます。それまでの舞ちゃんは母親の顔ばかり見て自分では何も決められず、できないことばかりに目を奪われ自己嫌悪に陥ってしまっていたのですが、祖母の声掛け(例えば「できんことは、次、できるようになれば、よか。そっでな。できんならできることば、探せばよかぞ」とか「苦労ばかけてできたもんは嬉しかろう」などなど)と温かい支えを受けて自分から一歩前に踏み出すことの大切さを知り、失敗しても大丈夫という自信をつけていきました。自分は3人の子育てをすでに終えてしまっていますが、高畑さん(ぼんば)のセリフには常に考えさせられました。子どもの持っている力を本当に信じていたのか?良かれと思ってやってきたことは「転ばぬ先の杖」だったのではないかとせめてこれから先、本当の意味で子どもたちを成長させられる校長でありたい、そしておじいちゃんになっていきたいと思いました。